

健康経営に関する海外展開と 国際標準化の狙い

◇ヘルスケアサービス効果計測コンソーシアム (EbHW)
(独)産業技術総合研究所

日立製作所、花王、ニチレイ、フジクラ

◇(社)社会的健康戦略研究所

フジクラ健康社会研究所、富士通ゼネラル、日本生産性本部、スポーツ、NTTデータ経営研、(ネオス、NECソリューションイノベーター、あすけん、イトーキ、ライオン、日立製作所)

◇(財)日本ヘルスケア協会

◇(公)日本ファシリティマネジメント協会

➤ 事務局: 日本規格協会

日本式健康経営を世界標準へ

健康経営先進国日本の 世界に果たすべき役割

日本発で

健康経営から世界を変える

世界の社会課題解決と日本の経済発展の両立が
持続的にできる日本へ

日本式健康経営は三方よし

日本で始まった健康経営の活動は、国民・経済・国家の課題を解決する

健康経営の本質は、

経営によし、社員によし、社会によし

経営目的を実現させるため、社員の社会的健康の向上を手段とすることで、結果として国の経済にも国民の社会保障の健全化にも寄与する。

日本主導で、世界の課題を解決

日本の健康経営のエッセンスを世界標準の形にして、世界に普及させる

- ポリシー
- プロセス
- 手法、デバイス、指標等々

＊日本の健康経営を世界へ普及

→世界の社会課題解決

→日本の経済的发展

→日本の社会課題解決

日本が健康経営の標準化で世界に優位な点

1. 日本には、健康経営の実践が浸透してきているので、実践社は山ほどある
2. 日本には、法定健診、ストレスチェック等の健康データが山ほど蓄積されている
3. 日本には、健康経営関連施策のエビデンスを検証する団体や研究者が世界と比較して多く存在している
4. 日本には、健康経営関連コンサルティング・ソリューション・サービス提供事業者も、デバイス・アプリ提供事業者も、山ほどいる

その結果として

- ✓ 世界と比して理念・技術で圧倒的に優位性
- ✓ 世界と比して標準化での経済効果も大きい

国内企業への健康経営の普及拡大が順調



出典: 経済産業省ウェブサイト

それに伴い健康経営の市場も拡大している

- 健康経営コンサルティング
- 分析サービス
- 健康指導サービス(個人やクラウド)
- スマホアプリ(健康データの取得と個人指導)
- 各種センシング/モニタリングシステム
- 人事管理システム
- 従業員の健康状態データの保管サービス

健康経営のビジネスエコシステムを海外に展開

企業



増加させる

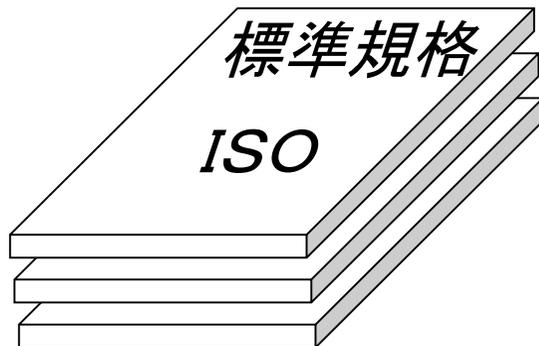
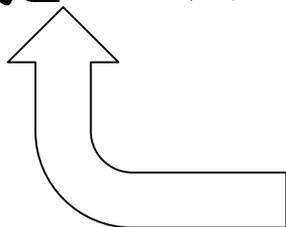
相互
ネットワーク
効果

増加させる

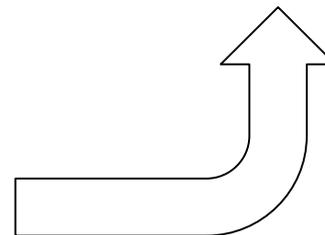
健康経営関連ビジネス



動機とニーズ



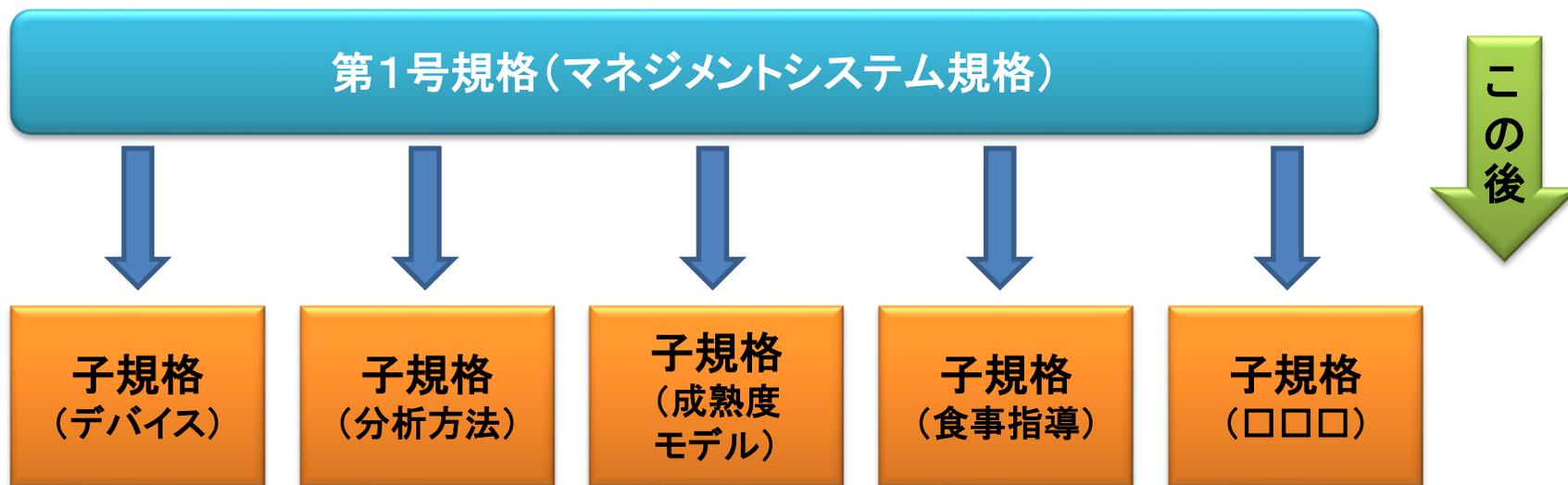
マーケットと認証



ISO14001や9001のようなオーソリティーのある規格が触媒の役割を果たすとともに、日本の健康経営の概念を世界に普及させる

第1号規格に続くシリーズ規格の構想

- ◆ この規格はマネジメントシステム規格である。規格内での機能とその水準を規定する規格ではなく、組織としてウェルビーイングを達成するためのマネジメントシステムをどのように作ったらよいというガイダンスを与える規格である。
- ◆ 将来、個別具体的な目的を持つ規格は、この規格の子規格・孫規格として作成される。



まとめ

1. 日本が世界に先駆け、これからの社会課題解決として社会実装している健康経営を他国に先駆けISO標準とすることを狙う。
2. 日本主導で健康経営を標準化することにより、SDGsに代表される世界の社会課題解決に日本のヘルスケア産業会がリードし、事業を通じて貢献しやすい環境を整備する。
3. その結果として、日本の経済発展と日本の社会課題の解決の両立の一端を実現させる。